あすなろ保育園　令和元年度事業報告

（平成 31 年４月１日～令和２年３月 31 日）

【一年間の総括】

社会福祉法人福島愛育園が運営する保育施設として、創始者の精神を継承・遵守し、令和元年度の自園の事業計画に基づき、全国保育士倫理綱領・新保育所保育指針を基盤にした保育を展開した。

今年度は、１・２歳児の入園が多く人的配置から園児数 70 名が許容範囲であり、地域のニーズに応えながら可能な範囲で待機児解消に努めた。しかし 10 月からの保育料無償化にともない、福島市においても３歳以上児の入園が増えた分未満児待機児が増加したことは否めない。

運営費等補助金は、給食費（副食費）分を減額され利用者から直接一人 4,500 円を徴収したが、減収入となり限られた予算の中で丁寧な個別対応と、地域の利用者を含めた“全ての方が幸せ”と感じるような質の高い保育を目指した。日々の保育内容の充実と合わせて、体内に取り込む食事に関しても、食育活動として全職員で研究して実践した。その一貫として“作って食する実体験”を目指し、農園でジャガイモ・カボチャ・トマト等も植えた。その野菜を活用して、今まで以上にクッキング保育を多く取り入れ、お泊り保育の際も収穫して目の前で焼いて食する活動を実践。このことはとても印象的で、卒園児の“楽しかった活動”に数多くあがっていた。さらに、毎月実施している、季節に応じたアートクッキーは自園オリジナルで、子ども・保護者から好評を得ている。総合的な物的保育環境整備についても努力した１年間だった。

しかし、年度末に新型コロナウイルスが流行し、予定していた活動を自粛し“命を守る行動”に徹した。卒園式やお楽しみ会等、形式を変更して現状にあった企画で子どもの心に残る活動を全職員で創意工夫した。（現在も引き続いている）

※8 項目の重点事業を踏まえ、活動状況を以下の数値等で集約して示す。

（運営の理念・重点事業・保育目標等はしおり参照）

１　質の高い保育内容と保育活動の展開（保育園の現状）

「新保育所保育指針」の特徴とポイントを押さえ、「子どもの最善の利益」に向け、私たちがどのような保育を展開するかが問われている。研鑽を重ね今までの保育に加味していく部分を見極め、発育・発達を保障する、より質の高い保育の展開に努めている。

（1）月別入所児童数および充足率（定員 60 名）　令和２年３月 31 日　　単位：人 ／ ％

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳　児	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	68
1・2歳児	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
3 歳　児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
4歳以上児	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348
合　　計	69	69	69	69	70	70	70	70	70	70	70	70	836
充 足 率 ％	115	115	115	115	117	117	117	117	117	117	117	117	平均 116

（2）月別保育日数　　令和２年３月 31 日　　単位：日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
日数	24	22	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25	290

（3）グループ別園児数　　令和２年３月31日　　単位：人

ほーる＆へや	ほっとけーきのおへや	ぐりーんほーる		みみずくほーる			ぷりんのおへや		
グループ名	ぴゅーま	ちーた	しまりす	ばんび	ぽにー	ぺんぎん	うさぎ	りす	ことり
年齢	5歳	4歳	3歳	2歳	2歳	1歳	1歳	0歳	0歳
男	6	6	5	2	1	2	2	2	2
女	8	9	7	4	5	4	3	1	1
合計	14	15	12	6	6	6	5	3	3

（4）職員配置　　令和２年３月31日

園　長：１名／副園長：１名／主任・副主任保育士：５名／副主任栄養士：１名
保育士：７名／栄養士：１名／学童支援員：１名／サポート・フリー：３名
嘱託医（小児科医師・歯科医師）　各１名

（5）園児地域別一覧　　令和元年３月31日　　単位：人

地　域	人数	地　域	人数	地　域	人数	地　域	人数	
1.蓬　萊	27	5.田　沢	5	9.桜木町	1	13.南向台	1	合計 70
2.黒　岩	16	6.清水町	2	10.成　川	1	14.腰浜町	1	
3.大　森	3	7.笹　谷	1	11.丸　子	1	15.太平寺	1	
4.松　川	6	8.飯　野	1	12.伏　拝	1	16.御倉町	2	

卒園児 14 名
蓬莱小学校：２名／蓬莱東小学校：８名／杉妻小学校：１名／鎌田小学校：１名／
福大附属小学校：１名／郡山市立西田学園：１名

（6）延長保育促進事業

①延長保育（6：55～8：00）　　単位：延人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
560	513	514	538	443	502	588	536	473	450	428	492	6,037

②特別保育（19：00～19：30）　　単位：延人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
34	41	42	47	35	43	35	31	33	36	38	37	452

11 時間の標準保育以外の延長保育利用者数は、毎日 20 名以上いる。3 割以上が８時前に集中して登園する。０・１歳児は「ぷりんのおへや」、２歳以上児は「みみずくほーる」にて安全に配慮し縦割保育を行い、最終的には年齢割の保育へと繋げ、遊びが分断されない保育を展開した。
戸外遊びの重要性が話題となっている中、８時からは戸外活動を実践して十分に身体を動かした。その成果として体力測定が良好だった。

２　保育環境の整備

“自然との共存”のテーマのもと、戸外活動の充実を目標の一つに掲げた。自園の特徴としてある遊び場の「みどりのおへや」の改修・更新を繰り返し、土手を走る・丸太ステップ・ロープ登りなど全身を動かし体幹を鍛えた。漕ぎポンプの井戸を改修し、呼び水を入れて水を出す・地下水の冷たさに気付くなど沢山自然に触れることも実践できた。また、福島県が奨励している“36 の運動”への取り組みは、単発的活動になってしまったが、環境を整備しながら次年度は計画的に実践していきたい。今後も「最もふさわしい生活の場」の

提供に資する。

３　食育活動を通しての子どもの健康管理推進

子どもの笑顔（命を守る）＝健康で順調な成長（発育）の根幹となる食事に関して、栄養士を中心に個別の離乳食・アレルギー食等の提供と実体験のクッキングを計画的に実施した。毎月恒例の「アートクッキー」は、その月のテーマに合わせて自園のオリジナルで好評を得ている。

４　子育て支援拠点事業を通しての地域児童の「幸福の希求」（どんぐりひろば）

（1）総括

子育て中の親のための包括的な支援（ソーシャルワークの役割が明示）の必要性が、今まで以上に求められている。様々な活動を通して、子育ての支援や地域の皆様が利用しやすいような活動を展開した。

出前支援として、専門の指導者を招聘して「リトミック」を実施し大勢参加した。JA 福島と FTV 共催の「ママフェス」の託児サービスや「ままカフェ」「パパママストレッチ」などの協力依頼には、２名以上の職員で対応した。未入園児の親子に、「どんぐりひろば」を利用していただき「全ての人が、子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現を目指して」のテーマのもと、園長・副園長・支援事業・学童担当者を中心に子育ての負担感を軽減する一助を担った。

（2）事業の内容

①子育て親子の交流の場（どんぐりクラブ）

園庭や支援センター“おむらいすのへや”開放（どんぐりひろば）・担当者のカリキュラムでの活動。

②育児講演会・講習会（どんぐりやまセミナー）

毎月、園の職員（社会的資源）の個性を活かしたバラエティに富んだ講座を提供した。

③子育て相談（電話・面接・訪問）　相談内容はかなり複雑化している。

④育児指導（ボランティア）

◆地域で開催されている「子育て交流会」に出向き、子育て中の親子と一緒に遊んだり、子育て相談に応じたり、地域に根差した活動の一貫を担っている（ままカフェ・ママフェス・パパママストレッチ）。

◆地域の“おはなしおばさん”が定期的に来園し素話を演じるボランティアや、ヒップホップダンス教室の支援で、年間 15 回指導していただいた。

◆東京家政大学と研究を連携していることから、学生ボランティアの受入れ。

⑤出前支援

◆専門の指導者を招聘して「リトミック」を実施し好評を得ている。

５　一時預かり事業（ちょうちょクラブ）

単位：延人数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
65	62	101	108	105	88	86	79	82	73	78	60	987

保育園に入園できない待機児の、０・１歳児の一時預かり利用希望者が多い。しかし人手不足から利用不可能な状況があった。

６　放課後児童健全育成事業（とんぼ学童クラブ）

単位：延人数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
719	617	643	875	627	603	676	629	635	586	564	333	7,507

個別対応の児童が多く、日々丁寧に関わっている。担当職員だけではなく園担当職員もサポートに行くなど負担を課している。学校との連携も重要になり、低学年担当教諭を中心に問題傾向の内容を話し合った。

７　家庭・地域・保育園が力を合わせてのネットワーク作り

月２回以上の園便り「あすなろっこ」と、支援センター便り「どんぐりひろば」を発行して地域に情報を発信した。地域の小中学校とも連携を深めるために、同様に「とんぼニュース」を学校宛に配布した。
また、中学生の「ドリームアップ事業」の協力として、生徒を受入れる・園長が講師として出向いての講話など地域に密着した活動を行った。養成校の依頼も受入れ、未来の専門職の育成にも寄与した。

８　インターネットのホームページによる情報の公開

毎月 10 日頃を目安に更新して最新の情報を提供した（アクセス数は現在 26,184 回）。